子どもの主体性を育てる ～J☆skepsアセスメント～

研修日：令和5年2月1日

＜J☆skepsアセスメントについて＞

ASDやADHDと言われるお子さんたちは主に行動の問題を抱えている。
彼らは潜在的に学習ができないのではなくて、「動機づけ」「意欲」「主体性」に問題があり、不適応行動が邪魔をして、学習に取り組むことができない。そこで自閉症教育の柱としてJ☆skepsが開発された（2007年）

＜J☆skepsの流れ＞

①研究開発：臨床場面をビデオ分析
②現場で活用・保護者と共有：共通言語があるとスムーズであるために分かりやすい言葉を使っている
③学習を支える学び：子供が自ら学ぶための力がどのくらいあるのかを診ていく。

＜J☆skepsの付け方＞

①７つの項目それぞれの下位６～８項目にチェック(〇・△・×)
②項目ごとの点数を出す
③平均点を出す
④機能的な目標と紐づける

＜チェックの通過基準＞

・〇：いつでも、どこでも、だれとでも完全にできる。
・△：できるけど、完全ではない。できる事の方が多い。指導のターゲット。
・×：できない、できる時が50%以下。

＜実際にチェックをつけてみて…＞

・言葉が分かりやすいので、つけやすかった。
・SCERTSを活用すると、共同注意の項目などをより細かく分析する事ができた。
・グループで支援があったらできそうな子どもでも、チェックをつけてみたらまだ個別の段階である事が分かった。

＜今後の活用＞

個別からグループへの移行時に活用していきたいが、移行までの期間や移行準備期間に

どのようなプログラムを組んでいくか検討しながら活用していきたい。